

令和元年度 第1回 幸田町総合戦略推進委員会 議事録

○日 時：令和元年8月8日（木）午後2時～4時

○場 所：幸田町役場4階 第3第4委員会室

○出席者：委員及びオブザーバーの計16人、町事務局等6人

○協議内容と主な意見等

「幸田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」における数値目標及び交付金事業に対する現時点での評価、並びに各種施策の取組みについて、委員から以下のようなご意見をいただきました。

●人口ビジョンについて

- ・計画策定時より人口の伸び率が高く、想定していた人口を既に超えているので、現状を踏まえて計画を見直す必要がある。
- ・外国人居住者の増加に伴い、日本語が話せない子どもが増えているため、外国人の子どもに日本語を教える場を設けてほしい。
- ・今後、人口増加の計画を立てるとするのであれば、保育園・学校・児童クラブの整備もセットで考えてほしい。

●数値目標（KPI：重要業績評価指標）に対する評価について

- ・年度表記について、該当期間を示した方が良い。
- ・単に目標値と実績値を比べて評価するのではなく、全国的な動向や情勢を踏まえて評価した方が良い。
- ・先端技術などの事業は、最終的な目標が数値であっても、中間目標が数値になるとは限らないので、数値以外の評価方法を考える必要がある。
- ・ふるさとの名産品について、種類の増減で評価するのではなく、町民のQOL（生活の質）向上や、子どもたちの誇りづくりに貢献しているかなど、数値以外で評価する必要がある。
- ・数値では測れなくても、町にとって有益な取組みもあるので、そうした取組みは今後も大切にしていってほしい。

●交付金事業について

- ・先進事業は成果が出るまでに時間がかかるが、成果をただ待つだけではなく、少しずつ成果が出るような取組みをする必要がある。
- ・ハッピー・チャイルド・ステーションについては、「なめらかにつなぐ第三の場所サードプレイス」をコンセプトに整備したので、企業や大学、NPO法人などが協力し合ってコミュニティを作る第三の場所になり得ているどうかを評価するべきである。

●リーディングプロジェクトの取組みについて

- ・凧あげ祭りの知名度が低いので、SNSを活用するなどアピールの方法を考えた方が良い。
- ・事業の内容によっては、話題作りを志向するものか、本格的な事業化を志向するものか、切り分けた方が良い。
- ・観光と組み合わせる事業を展開するなど、他分野と組み合わせることで、有機的な効果が出てくる。

以上